2021（令和３）年度
自己点検・評価書

2022 年３月

佐賀大学

保健管理センター

2021（令和 3）年度の保健管理センターの業務について総括し、活動報告および自己点検・評価を行う。

Ⅰ　日常業務に関する状況と自己評価

保健管理センターは、佐賀大学の保健管理に関する専門的業務を行うことを目的として設置されている（佐賀大学保健管理センター規則第 3 条）。業務内容は下記の通りである。

(1) 保健管理計画の企画・立案
(2) 定期及び臨時の健康診断
(3) 健康相談及び救急措置説明
(4) 健康診断の事後措置，その他健康の保持増進に関する必要な指導
(5) 学内の環境衛生及び感染症予防に関する指導・援助
(6) 保健管理充実向上のための調査研究
(7) その他保健管理に関し，必要な専門的業務

最近では、従来の健康診断を中心とする業務に加え、新たな業務内容が増えてきている。今年度は、昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の広がりによって、感染症対策の業務に多くの時間を割くこととなった。今年度も、感染症対策のため遠隔授業の期間が続くなどの特殊な状況が長引くこととなり、学生のメンタル面への影響も見られた。学生支援の面では、発達障害等の障害を持ち合理的配慮を必要とする学生が増えてきており、学生支援室と協力して支援に当たっている。また、教職員の支援に関しても産業医としてストレスチェックによる高ストレス者および要配慮者の面談や復職支援、就労支援等のサポートを行うケースが増えてきている。

学生の健康管理実施状況

本庄地区では、健康診断として、定期健康診断（新入生、在学生、留学生）、スポーツ健康診断、RI・じん肺・特定化学物質健康診断、感染症対策として、新型コロナウイルス感染症等への対応、メンタルヘルスとして、通常カウンセリングおよびスクリーニング、その他として、禁煙サポート、肥満学生支援、保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

鍋島地区では、健康診断として、在学生、大学院生の定期健康診断、RI健康診断、感染症対策として、新型コロナウイルス感染症への対応、小児感染症対策（新入生）、B型肝炎ワクチン接

種、インフルエンザワクチン接種、メンタルサポートとして、カウンセラー面談、スクリーニング面談、その他として保健指導・救護、健康診断証明書発行などの業務を行っている。

＜本庄キャンパス＞

1. 定期健康診断

（1）学生健診実施状況

例年、4 月中に実施しているが、本年度は昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症の影響で一部日程は 7 月に延期となった。前年（2020 年）は、新型コロナウイルス感染症の影響で、対象を①新入生②実習参加予定者③経過観察が必要な者と限定して実施したが、本年度は予約システムで混雑を回避しながら感染症対策を行い、全学生を対象として実施した。

（2）学生健診受診者数

健診対象者は 5,614 名、受診者は 3,733 名で受診率は 66.5%だった。学部新入生の受診率は、教育学部 96.0%、芸術地域デザイン学部 78.9%、経済学部 81.7%、理工学部 79.0%、農学部 94.8%で、新入生全体の受診率は 83.6%であった。学年別の受診率は、2 年生 73.4%、3 年生 59.5%、4 年生 56.1%で、3・4 年生の受診率の低さが目立った。大学院生の受診率は、67.9%だった。遠隔授業が続く状況で来学が困難な学生、感染を避けるため医療機関で健診を受ける学生もあり、健診受診率は例年の 80%程度と比較し、低い受診率となった。

2. 健康診断結果（各検査所見）

既往歴では、呼吸器疾患、アレルギー疾患、外科・整形外科疾患、皮膚科疾患などが多く見られた。やせ（BMI 18 未満）は 403 名、肥満（BMI 30 以上）は 79 名に見られた。胸部レントゲン検査は要精密となった者が 5 名であった。血圧は 104 名が有所見者（高血圧、低血圧）で、再検査、自宅血圧の測定などでも異常が見られる学生については専門医に紹介を行った。検尿異常（尿蛋白、潜血）は 221 名あり、再検査でも異常が続く者については、腎臓内科、泌尿器科等に紹介した。心電図検査は、10 名に実施し、いずれも比較的軽度の所見を認め経過観察を行っている。

3. 留学生健康診断

留学生健診は、2020 年度からは健診項目を日本人学生と統一し、血液検査は廃止した。受診率は前学期の健診対象学生 112 名中受診者 60 名（53.6%）、後学期の対象学生 48 名中受診者

3 名（6.3%）、総計 160 名中 63 名（39.4%）だった。とくに後学期の健診については、新型コロナウイルス感染症の影響で入国が遅れた学生が多数おり、3 名のみの受診となった。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康調査（メンタルスクリーニング）

心理面のスクリーニングを行うために、全学生（留学生を除く）へ「学生生活質問票」（CMHQ：College Mental Health Questionnaire を改編）を配布し、調査を実施した。総得点が 30 点以上（1～4 点の 4 件法、12 項目、総得点は 12～48 点）、「ふと自分がこの世にいなければと考えてしまう」という希死念慮の設問項目で 3 点（「かなりの間」）以上だった学生、相談希望の学生、悩みを抱えているのではないかと健診時に判断された学生を要面接者として呼び出しを行った。結果は以下の通りである。

新入生：要面接者は 36 名（3.8%）、男性 16 名、女性 20 名であった。それらの学生の中で、32 名（88.9%）に面接を実施した。神経症（不安障害など）、発達障害圏内の可能性、気分障害、自殺のリスクなどの状態が 16 名に認められた。

2 年生：要面接者は 29 名（3.4%）、男性 14 名、女性 15 名であった。それらの学生の中で、25 名（86.2%）に面接を実施した。気分障害、神経症（不安状態など）、発達障害圏内の可能性、睡眠障害などの状態が 19 名に認められた。

3 年生：要面接者は 17 名（2.4%）、男性 7 名、女性 10 名であった。全員に面接を実施した。発達障害圏の可能性、気分障害、睡眠障害、神経症などの状態が 14 名に認められた。

4 年生：要面接者は 44 名（5.7%）、男性 19 名、女性 25 名であった。37 名（84.1%）に面接を実施した。神経症、発達障害圏の可能性、気分障害、睡眠障害、摂食障害などの状態が 37 名に認められた。

大学院生：要面接者は 23 名（6.0%）、男性 16 名、女性 4 名であった。20 名（87.0%）に面接を実施した。神経症、発達障害圏の可能性、気分障害などの状態が 17 名に認められた。

全体として、131 名に面接を行い、とくに問題がないと判断された学生は 40 名だった。精神的な診断が可能とされた学生は 91 名で、神経症（不安状態など）、発達障害（疑いも含む）、気分障害（うつ状態、躁状態など）が比較的多く見られた。すでに学内（保健管理センター、学生支援室、キャンパスソーシャルワーカー）、学外の医療機関のフォローにつながっている学生が多かったが、新たにカウンセリングにつながる学生も 23 名と多かった。

昨年度から、面談対象となる学生には健診当日にアプローチを行う形に変更し、面接へスムーズに繋げることができた（面接実施率 87.9%）。要面接者は、昨年度に比べ約 2 割増加した。相談希望ありの学生は、Web 実施の前年と比べ、2 名から 34 名に急増した。コロナの影響が長引いており、疲労やストレスを抱えている学生が自ら相談希望したケースが多かった印象である。また、気分障害（うつ状態）と考えられる学生が昨年度に引き続き多く見られている。希死念慮関連項目でスクリーニングされる学生は多いが、実際に自殺の危険があると判断された学生は 1 名だった。「自分の必要性や生きる意味を考えることがある」「何となく考えることがある」との回答が多く、アイデンティティを模索する大学生の年代において、得点が高くなりやすいと思われる。発達障害（疑い含む）とされた学生の多くは学生支援室でフォローアップされており、支援につながっていることが確認された。

4-2 カウンセリング状況

本庄地区では、非常勤の学生カウンセラー3 名(学生支援室と兼任)と医師、保健師が保健管理センターでカウンセリングを行っている。カウンセリングを受けた学生数は 102 名、延べ面談数は 564 回であった。外部医療機関（精神科等）へ紹介したケースが 7 件あった。相談内容の内訳は、精神衛生が 78 名と多く、次いで学業 7 名、家族4名、学生生活 4 名、身体健康、進路の順だった。

4-3 障害学生（留学生を除く）

本年度の保健管理センターが把握している障害学生数は 195 名（うち本庄 168 名）、何らかの修学支援を行っている学生は 92 名（本庄 68 名）、障害手帳等取得者は 1 名であった。前年度と比較して障害学生数は、34 名（本庄 25 名）増だった。病弱・虚弱、精神障害、発達障害、視覚・聴覚・言語の障害、肢体不自由などの障害を持つ学生が在籍しており、学生支援室集中支援部門と連携して支援ニーズの把握や修学支援、身体の健康面のサポート等を行っている。

5. 感染症対策

新型コロナウイルス感染症対策として、学生生活全般の感染症対策（ホームページ・メール等での情報周知、体調チェックシートによる体調確認）のほか、心身の不調に関する相談窓口の設置を行った。また、「感染が疑わしい場合の状況別対応表」の作成・運用、新型コロナウイルスの検査受検者用報告フォーム「検査報告フォーム」の運用、「感染が疑わしい場合の報告フォーム」の教務課との共同運用、健康診断の実施方法の変更、入学試験に関する感染症対策等の対応を

行った。

■主な感染症対策業務

①感染者、濃厚接触者の把握

「検査報告フォーム」および「感染が疑わしい場合の状況別対応表」を作成し、体調不良の場合、自身が濃厚接触者になった場合、家族が濃厚接触者となった場合等について、学生・教職員がスムーズに大学に報告ができるよう大学 HP に掲載し案内した。Forms 入力後の詳細の聴き取りや濃厚接触者の把握、保健所との連絡については、保健管理センタースタッフがケース毎にきめ細かく対応を行った。

②関係部署（教務課、学生生活課、人事課、総務課、各学部等）との情報共有

把握した感染者に関する情報については、個人情報保護に留意しながら、関係者間で共有を行い、クラスター対策や緊急対策本部（執行部）への迅速な情報提供に努めた。

③保健所との連絡連携

おもに佐賀市を担当する佐賀中部保健福祉事務所と感染者の発生状況等について情報共有を行い、対応を行った。昨年のクラスター発生時には保健所長、感染制御部よりご指導いただきながら、感染予防対策を進めた。

④新型コロナワクチン職域接種

2021 年 8 月、9 月に本庄キャンパスにおいて職域接種を実施した。感染制御部をはじめとする医学部の皆様および事務職員の方々にご協力いただき、佐賀大学の学生・教職員、佐賀女子短期大学、関連企業の方など 1 回目 3,443 名、2 回目 3,424 名（のべ 6,867 名）を対象にワクチン接種を行った。大きなアクシデントもなく、無事に終了することができた。

■コロナ禍における通常業務について

①授業における感染対策

座席の設定、換気、消毒、アクリル板の設置、送迎バスの使用方法等について、教務課・学部等と協議を行い、感染対策を実施した。

②健康診断に関する変更や調整

2021 年度の健診は完全予約制で混雑を回避し、感染症対策とともに利便性向上を図ることができた。

③部活・サークル活動についての注意喚起

2021 年 4 月、学内のサークル活動でクラスターが発生したため、すべての団体で一時、活動禁止とした。活動再開にあたって、活動指針、競技別ガイドライン、教育用動画の作成などを学生生活課と協力して行った。

④感染拡大防止のための緊急メッセージの発信

学内での感染拡大の状況を見ながら、HP やメール等で学生向けに感染拡大防止のための緊急アラートメッセージ発出を行った。

⑤入試対応

コロナ禍における入試ということで、文部科学省から共通テスト等受験に関するガイドラインが示され、感染症対策の実施支援および体調不良者、濃厚接触者の受験生への各種対応を行った。

◎コロナ禍における学生のメンタルヘルスについて

コロナ禍において、学生のキャンパスライフには制約や変化が生じ、2020 年、2021 年の学生のメンタルスクリーニングでは、例年以上に抑うつ、不安、希死念慮などを抱える学生が多く見受けられるなど、心配な状況が続いている。

保健管理センターでは、学生支援室相談員（臨床心理士 4 名）と連携し、スクリーニング、カウンセリングからリスクの高い学生を見つけ出し、必要に応じて医療機関につなぐ（紹介する）ことを確実に行えるように体制整備を行っている。

6. 健康診断証明書発行状況

自動発行機による健康診断証明書発行状況は、1,521 通であった。保健管理センターにおける発行件数（自動発行で対応できないもの）は、76 通であった。発行数が多いのは、発行開始直後の 6 月、発行終了前の 3 月だった。発行の目的はほとんどが就職用だった。

7. 保健管理センター利用状況（本庄地区）

保健管理センターの利用件数は 6,066 件（学生 4,017 件うち留学生 247 件・職員 2,049 件）であった。学生・教職員の体調不良時の診察や医療機関への紹介、外傷の応急処置、メンタルヘルスについての相談、健診の事後措置（血圧、検尿の再検査等）、保健指導など利用の内容は多岐に渡っている。医師 2 名、保健師 2 名の体制で対応している。

＜鍋島キャンパス＞

1. 定期健康診断

医学部の定期健康診断は、医学部のカリキュラムや実習に合わせ計画し、医学科 5 年生は 1 月、医学科 6 年生は 3 月、それ以外の新入生・在学生・大学院生は 4 月に実施した。令和 3 年度は、新型コロナウイルス感染はあったが、予定通りの日程で実施となった。

学部在学生の健康診断受診状況は 889 名中 882 名（99.2%）であった。大学院生は休学を除く 134 名を健康診断受診対象者とした。他機関受診を含め 79 名（57.7%）が健康診断を受診した。医学部の全体の受診率は 93.5%であった。大学院生の健康診断の受診率が低い状況は続いている。

令和元年度からは、社会人大学院生に対しては、3 月の健康診断の案内だけでなく、夏期を利用し、他機関健康診断受診結果の提出を呼びかけている。また、附属病院職員かつ大学院生については、職員健康診断受診した場合は、佐賀大学の健康診断受診とみなしている。引き続き大学院生受診率を上げる対応は課題である。

2. 健康診断結果

新入生における現症または所見のある者の中で、頻度の高い疾患および状態像は、アレルギー性疾患 14 名、気管支喘息などの呼吸器疾患が 6 名、循環器疾患 6 名が多く認められた。血液検査を実施しているが、肝機能異常や脂質異常症などの血液検査異常を認める学生は 2 名だけであった。

3. 感染症対策

小児感染症：令和 3 年度からの抗体基準は、「環境感染学会の医療従事者のためのワクチンガイドライン」に基づき、麻しん 16.0 以上、風疹 8.0 以上、水痘・ムンプス 4.0 以上とし、かつ、小児感染症のワクチン接種を過去2回接種するように案内を行った。接種に当たっては、かかりつけ病院との関係もあり、2回接種を実施するためには、時間を要する学生もいた。臨床実習開始までに接種が終了できるよう、引き続き対応を行うこととした。

B 型肝炎ワクチン：医学部新入生で、入学時の血液検査で、HBs抗原、HBs抗体がともに陰性の学生に B 型肝炎ワクチン接種を行っている。令和 3 年度は、新型コロナワクチン接種を医学科新入生に実施したため、新入生は10月から B 型肝炎ワクチン接種を開始した。

医学科 1 年 102 名、看護学科 1 年 60 名、計 162 名が接種を受けた。B 型肝炎ワクチン接種は、3回接種が必要となるが、3回目は令和3年度4月に実施し、血液検査による判定は6月に予定している。

医学科 4 年生については、入学時に B 型肝炎ワクチン接種を行い、実習前の確認検査として令和2年度から 4 月に定期健康診断の項目として、血液検査を行った。47 名が HBs抗体陽性から陰性に変化していた。この対応として、2021 年 1 月 24 日に B 型肝炎ワクチンの追加ワクチン接種を、希望者 39 名に行った。

インフルエンザワクチン:10 月に実施した。対象学年は、実習学生医学科 5 年・看護学科 3 年、および国家試験を受ける医学科 6 年・看護学科 4 年、1 月に臨床入門開始する医学科4年生、大学院生を含む 440 名にワクチン接種を行った。

新型コロナウイルス感染症:2019 年 12 月中華人民共和国湖北省武漢市で新型コロナウイルス感染症が発生した。その対応については、本庄地区保健管理センターと医学部学生課と対応について情報共有し対応を行った。

① 感染者、濃厚接触者の把握

「検査フォーム」「感染が疑わしい場合の状況別対応表」と保健管理センターへの直接連絡について、情報収集・関係機関との連絡対応を行った。

② 関係部署(感染制御部、学生課、各部局)との情報共有

病棟実習の学生については、感染制御部と協力し、対応を行った。また、学外実習の学生は、学生課教務および実習担当教員と協力し対応を行った。

③ 新型コロナワクチン接種

医学部学生も医療従事者としてワクチン接種対象者となるため、感染制御部・総務課・医事課・学生課と協力し、4 月から順次対象学年にワクチン接種を行った。医学部のワクチン接種会場が、職員・学生ともに保健管理センターで実施された。ワクチン接種の準備・会場設営・接種後の清掃・救急時対応の準備などに例年以上の負担があった。また、現在は、市町村から接種券が郵送されているが、ワクチン接種の1・2回目接種は、医学部学生の接種券の準備を保健管理センターと感染制御部で協力し作成した。学生へのワクチン接種の説明・意向調査に時間を要した。令和3年度の学生の新型コロナワクチン接種人数は、1,776 人であった。

④ ワクチン接種状況管理・情報提供

医学部外の職域接種でワクチン接種を受ける学生もいるため、接種証明書を保健管理センターに提出させ、接種状況を把握するなど、学生の状況把握に努めた。職域接種の案内、住居地外

接種などの状況提供や、未接種者へ接種勧奨などを丁寧に行った。ワクチン接種を行わない学生には、接種しない理由を確認し、実習現場での感染対策の参考とした。

4. メンタルヘルス対策

4-1 健康調査（メンタルスクリーニング）

新入生：入学時のオリエンテーション時に CMHQ：College Mental Health Questionnaire を配布・記入後回収し、翌日予定した健康診断時に面談の案内を行った。令和 3 年度は、対面で面談を行った。入学後すぐに面談を計画したため、面談率は 94.1%であった。

在学生：H23 年度から、医学科 2 年、看護学科 3 年を対象に全員スクリーニング面接を実施している。また、医学科4年は、希望者のみ面談対象としていた。

令和 3 年度は、感染対策に留意しながら、全員対面での面談を実施した。看護学科3年は、教員の呼びかけもあり、59 名全員が面談を受けた。医学科 2 年生については、10 月からの解剖実習開始のオリエンテーション時にスクリーニング面接の案内を行った。110 名中 95 名（86.4%）が面談を受けた。

4-2 カウンセリング状況

鍋島地区では、学生のカウンセリング体制としては、安田カウンセラー1 名が主にカウンセリングを行っている。学生の状況により、尾崎医師、坂本教員、医学部附属病院精神神経科学校医 2 名による相談・診療体制をとっている。安田カウンセラーによる継続カウンセリングを受けている学生は、は 34 名であった。

学校医診察については、学校医の協力により、附属病院受診の診察を保健管理センター分室内で行われるため、学生のメンタル状況および受診状況が把握しやすい支援体制になっている。

講義を繰り返し休む学生については、学生課やチューターからの情報提供があり、必要に応じて対応を行った。欠席を繰り返す学生には、精神科医、副センター長、カウンセラーと学生課、チューター、および保護者と連携し対応を行った。

カウンセリング・診察を受けた学生は 70 名、延べ面談回数は 199 回だった。相談内容は、精神衛生が 42 名、学業 9 名、その他が 10 名であった。

4-3 障害学生

保健管理センター分室として把握している障害学生数は 27 名。何らかの支援を行っている学生は 24 名。障害手帳等取得者は 0 名。病弱・虚弱、精神障害、発達障害などの障害を持つ学生が在籍。1 名の学生が、本庄地区の学生支援室集中支援部門と協力し、支援を行った。

5. 健康診断証明書発行状況

医学部の場合は、免疫の記録（小児感染症・B 型肝炎ワクチン接種）と国家試験免許申請に関する診断書発行のため 3 月に多い。保健管理センターでの 3 月までの診断書発行は 306 件であった。

6. 保健管理センター利用状況

令和 3 年度の 3 月末までの保健管理センターの利用件数は 11,447 件（学生 4059 件・職員 7538 件）であった。鍋島地区は、医師 1 名、カウンセラー1 名、保健師 1 名、看護師 1 名の体制で対応している。

学生は新型コロナウイルス感染症の流行により、体調不良による利用者は減少した。一方で新型コロナワクチン 3 回接種を実施したため、ワクチン接種に関連する利用者数が増加した。例年の利用者が、7000 人程度に対して、4000 人程度増加した。

メンタルヘルスの観点からは、例年は対面講義で学生の状況把握が行われていたが、オンライン講義で学生の状況把握が難しい傾向があった。令和 3 年度は、看護学科 3 年の実習開始時のメンタル不調者が多く、緊急対応が必要な事例もあった。

教職員の健康管理実施状況

＜本庄地区＞

1. 労働安全衛生活動状況

本庄地区では、安全衛生管理活動として、職場環境の整備（作業環境管理、職場の巡視、5S 活動、快適職場づくり）、マニュアル等の整備（安全衛生管理マニュアルの作成、SDS の整備）、健康保持増進対策（健康診断、有所見者に対する事後措置、メンタルヘルス対策、受動喫煙防止対策）、安全衛生教育（安全衛生教育、能力向上教育、衛生管理者等資格者の確保）等の活動を環境安全衛生管理室と連携して行っている。

2. 健康診断

雇入時健康診断、一般定期健康診断、特定業務従事者健康診断、他機関受診（人間ドック等）を合わせると、860 名が健康診断を受けていた。健診受診率は 1 名が未受診（休業後、未受診のまま退職）となり、受診率は 99.9%だった。定期健康診断の要精密者は 367 名（57.3%）であったが、その内、精密検査を受診した者は 166 名（45.2%）であった。精密受診率は十分ではなく、医療機関を受診していただくよう引き続き受診勧奨を行っていく必要がある。雇入時健康診断、胃検診、大腸がん検診の精密検査受診結果提出率は、それぞれ、77.8%、83.3%、100%だった。

3. 感染症対策

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染症についての対策を下記の通り行った。

①感染者、濃厚接触者の把握

「検査報告フォーム」および「感染が疑わしい場合の状況別対応表」を作成し、体調不良の場合、自身が濃厚接触者になった場合、家族が濃厚接触者となった場合等について、学生・教職員がスムーズに大学に報告ができるよう大学 HP に掲載し案内した。Forms 入力後の詳細の聴き取りは、保健管理センタースタッフがケース毎に対応を行った。

②関係部署（人事課、総務課、各学部等）との情報共有

把握した感染者に関する情報については、個人情報保護に留意しながら、関係者間で共有を行った。

③新型コロナワクチン職域接種

2021 年 8 月、9 月に本庄キャンパスにおいて職域接種を実施した。感染制御部をはじめとする医学部の皆様および事務職員の方々にご協力いただき、佐賀大学の学生・教職員、佐賀女子短期大学、関連企業の方など 1 回目 3,443 名、2 回目 3,424 名（のべ 6,867 名）を対象にワクチン接種を行った。

④インフルエンザ予防接種（職員）

コロナ対策、危機管理の観点から、本庄キャンパス職員の希望者へのインフルエンザ予防接種を 2020 年度より開始した。2021 年度も、予約システムを利用して 646 名の職員に混雑なく接種を実施した。

4. メンタルヘルス対策

（1）健康調査（メンタルスクリーニング）状況

本庄地区では、全教職員を対象に 8 月に中央労働災害防止協会のヘルスアドバイスサービスを活用した「ストレスチェック」を行った。対象者 891 名中 833 名（回答率：93.5％）からの回答を得た。高ストレス者は 50 名（2020 年度 4.6％→2021 年度 6.0％）、要配慮者は 3 項目 8 名、2 項目 21 名だった。高ストレス者のうち 8 名からは面接希望があり、8 名に産業医・産業カウンセラーによる面接を実施した。

また、新規採用者・異動者等を対象にメンタル面のスクリーニングのための面談を行っている。新しい環境への適応に問題がないかを確認するため「疲労蓄積度チェック」などを用いて心身の健康の確認を行っている。本年度は 111 名（100％）の面接を実施し、うち 5 名は継続カウンセリングとなった。

（2）カウンセリング実施状況

カウンセリング体制は、産業医 1 名、産業カウンセラー（非常勤）1 名、保健師 2 名である。相談の実数は 68 名、延べ数は 271 件であった。実数・総数とも前年度より増加していた。病院紹介が 12 件だった。相談内容の内訳は、ほとんどが精神衛生であった。

5. 復職支援実施状況

病気（メンタルヘルスの不調者を含む）やけがなどが原因で心身の健康を害し、休職している（休職しようとする者を含む）教職員に、段階（0～4 段階）ごとに産業医が中心となり復職支援を実施している。それぞれの段階とは、第 0 段階（発症時の支援）、第 1 段階（療養開始・療養中の支援）、第 2 段階（職場復帰準備期の支援　例：仮出勤）、第 3 段階（職場復帰時の支援）、第 4 段階（職場復帰後の支援　例：慣らし出勤）である。

本年度の復職支援対象者は、フィジカル 1 名、メンタル 7 名で、延べ面接回数は 48 回だった。とくに仮出勤中は体調の変動が起きやすいことから、今年度からは原則的に週 1 回産業医面談による体調確認を行うようにし、不調時には早めの対応（以降の仮出勤プログラムの修正等）が行えるようにした。2 名の職員に復職支援プログラムによる復職のサポートを行った。復職判定会議を 2 件実施し、メンタル疾患で休職していた職員 2 名が復職した。復職後のサポートのための面談も適宜実施し、復職後の体調管理、職場への順応がスムーズに行われているかをフォローアップしている。

6. 労働災害報告

本年度の労災発生は計 6 件だった。7 月、10 月、11 月、3 月に労災の発生があった。発生状況、再発防止への取り組みについては毎月の本庄地区安全衛生委員会で環境安全衛生管理室より報告されている。

7. 長時間労働に対する産業医面談

月の勤務時間が標準時間から 80 時間を超えた者、もしくは 60 時間以上が 2 ヵ月続いた者に対して産業医面談を行い、健康状態の確認や管理監督者への勧告を行うこととしている。毎月人事課より長時間労働者についての報告を受け、産業医が確認を行っている。本年度は 30 名の面談を実施した。高ストレス面談時には、時間外労働の状況についても確認を行うようにしている。

＜鍋島地区＞

1. 労働安全衛生活動状況

鍋島地区では、鍋島地区安全衛生活動計画に基づき、鍋島事業場産業医 1 名、附属病院事業場産業医 2 名、総務課、専任衛生管理者、衛生管理者等と連携し活動を行っている。

2. 健康診断

職員健診は、医学部附属病院での定期健康診断の 100%受診を労基署より指導をされている。今年度の定期健康診断受診率も 100%であった。

雇入時健康診断については、佐賀中部保健福祉事務所の立入検査により、採用後概ね 1 か月以内に実施するよう指導があった。異動が多い附属病院職員においては対応が困難だったが、委託契約している近医での受診を勧め、1 か月以内に計画・実施している。

有機溶剤取扱者および電離放射線従事者健康診断も 100%受診となっている。

精密検査については例年並みの受診率となっている。引き続き文書やメール、電話等で精密検査の勧奨を行っていく必要がある。胸部 X 線の要精密者で結核が認められた職員がおり、より確実に精密検査の追跡を行っていかなければならない。

今年度も希望者に乳がん・子宮がん・胃がん・大腸がん・前立腺がん（今年度新規）の各種がん検診を行った。乳がん検診 132 名、子宮がん検診 143 名、胃がん検診 87 名、大腸がん検診 194 名、前立腺がん検診 66 名に実施した。6 年目となる歯科検診は 91 名の受検があった。

3. 健康づくり

佐賀県企業対抗ベジアップ選手権に 1 チーム 5 名の 8 チーム 40 名が参加した。8 月から 3 か月継続で野菜摂取量（ベジスコア）を測定し、伸び率を県内 9 企業で競った。見事、鍋島事業場が県内トップとなり、表彰式及びテレビ出演の優勝賞品をいただいた。「さが健康企業宣言」を宣言し、健康づくりに取り組み、優良企業として認定された。認定書をいただき、ロゴマークは保健管理センター案内のチラシにも採用している。

4. 感染症対策

職員の感染症対策については、専任衛生管理者・附属病院感染制御部と協力し企画・実施した。

小児感染症 4 項目（ムンプス・麻疹・風疹・水痘）については、医療従事者の有資格職員については雇入時までに 4 種のワクチン各々2 回接種をお願いしている。接種証明書や母子手帳写し等を提出していただき確認を行っている。資格を有しない非常勤職員に対しては、のべ 71 名にワクチン接種を行った。

B 型肝炎対策として、健康診断時に 269 名の抗体検査を実施し、のべ 124 名にワクチン接種を行った。ワクチン接種後の免疫獲得率は 92.2%となっている。

インフルエンザについては、全職員及び業者を対象に 1,792 名にワクチン接種を行った。

新型コロナウイルス感染症については、1 回目のワクチン接種を 243 名、2回目を 1,895 名、3 回目を 1,800 名に接種した。また感染対策として面談時のパーテーションやロールスクリーンの設置、健康診断受付前の手指消毒と発熱スクリーニング用サーモグラフィーの設置、マスク着用の徹底等を行った。喚起も適宜行い、密にならないようレイアウト変更も行った。

5. メンタルヘルス対策

新規採用者・異動者及び昇任者を対象とし、スクリーニング面接を 168 名に実施した。継続が 6 名だった。うち新人看護師は年 2 回の面接を実施。新人看護師の年度途中の退職は 4 名となっている。

健康診断時に職業性ストレスチェックを行った。職員のメンタルヘルス対策として平成 23 年度から継続実施している。1,707 名（回答率 98.4%）が回答した。要配慮者が 358 名（22.6%）、高ストレス者が 154 名（9.0%）だった。カウンセラー面接が 58 名実施され、カウンセリング継続が 1 名、産業医面談 2 名だった。高ストレス者の面接指導は 1 名実施となった。

大学職員の場合、異動は避けられないものであり、適応障害となる事例も認める。異動時の職務に関する教育・指導・配慮は職員の業務だけでなくメンタルヘルスにも影響するため、管理職の果たす役割は大きい。そのため安全管理担当・安全衛生スタッフと協力し、管理職研修を実施するなど、よりよい職場環境となるよう例年取り組んでいたが、今年度も新型コロナウイルス感染症により研修会等の実施は出来なかった。

個別カウンセリングは、上司からの勧めや指示で、病休や異動にまつわる不調について現場の上司等と連携した事例が多くある。病院紹介や産業医へつないだ職員が 7 名あった。
8 月に不幸な転機をなった職員がおり、関係部署との打ち合わせを 4 回行い、関係者へのアンケート調査をまず実施した。緊急支援として面接を計 21 名の職員へ行った。今後ますます自殺対策を含め、職員の安全を確保するため、より迅速な対応や支援ができるよう各部署との連携を図っていきたい。

6.　過重労働対策

新型コロナウイルス感染症の対応により、医療従事者及び事務職員の長時間労働者が前年度よりもかなり増えていた。月の勤務時間が標準時間から 80 時間を超えた者、もしくは 45 時間以上が 3 か月続いた者を対象に、5 名に産業医面談を実施した。

7. 復職支援対策

復職支援対策として、職員 27 名にのべ 149 回の産業医面談を行った。メンタルでの休職者のうち 5 名の職員が復職支援プログラム後に復職した。

8. 禁煙対策

鍋島地区は平成 19 年に病院敷地内禁煙、平成 25 年に医学部全面禁煙となり、悪質な隠れ喫煙は見られなくなり、喫煙率は着実に下がってきている。定期のパトロールはいったん中止とし、喫煙や吸い殻等の通報があった場合は巡視を行い、ポスター掲示等を実施した。その都度、安全衛生委員会で報告を行い、また職員の喫煙率等についても喫煙対策委員長より安全衛生委員会で報告した。

Ⅱ　教育に関する状況と自己評価

保健管理センターの教員 3 名はそれぞれ大学及び大学院の講義を担当し、西九州大学、佐賀県医療センター好生館看護学院、県内の高校などでの講義・講演も依頼を受け行っている。准教授は大学院生の教育指導も行っている。また、学生や教職員向けの健康教育やミニレクチャーなども適宜実施している。以下に実績を示す。

＜本庄キャンパス＞

1. 講　義

木道（学内）:

健康科学 A・後期　全学部全学年対象　100 名

トレーニング理論・実習（池上寿伸・木道圭子）: 教育学部 3 年生

木道（学外）:

病態論１－A　循環器内科　佐賀県医療センター好生館看護学院　看護科1年 40 名

① 心不全　2021 年 10 月 11 日

② 虚血性心疾患　2021 年 11 月 8 日

③ 不整脈　2021 年 12 月 6 日

荒木（学内）:

ダイバーシティ・人権教育特論　大学院生 70 名　松下一世、荒木薫

2. 大学院生等指導

なし

＜鍋島キャンパス＞

1. 講義等

尾崎（学内）:

健康科学の Topics.　大学院修士課程　医学・看護学概論(1) . 2021.6.14

漢方入門: 東洋医学の基礎知識.　医学科 4 年　臨床入門 Unit10 2021.9.2.

漢方入門: 内科領域における漢方.　医学科 4 年　臨床入門 Unit10 2021.9.10.

生活習慣と健康.　インターフェイス科目: 食と健康 III　運動と栄養. 2021.11.4

尾崎（学外）:

病態治療学 II（消化器・泌尿器科）1. 肝臓・胆道・膵臓の機能と構造. 2021.10.4. 4 限目. 西九州大学看護学部

病態治療学 II（消化器・泌尿器科）2. 肝疾患の検査・診断と治療（ウイルス性肝炎・その他の肝炎）2021.10.4. 5 限目. 西九州大学看護学部

病態治療学 II（消化器・泌尿器科）3. 肝疾患の検査・診断と治療（画像診断・肝硬変・肝癌）2021.10.21. 4 限目. 西九州大学看護学部

病態治療学 II（消化器・泌尿器科）4. 胆嚢・胆道疾患の検査・診断と治療 2021.10.21. 5 限目. 西九州大学看護学部

病態治療学 II（消化器・泌尿器科）5. 膵疾患の検査・診断と治療 2021.11.4. 5 限目. 西九州大学看護学部

2. 大学院生等指導

佐賀大学医学部博士研究員 Dr. M. Manirujjaman (2020.4～)

佐賀大学医学部大学院医学系研究科博士課程医科学専攻 4 年（文部科学省国費留学生）Ms. Rasheda Perveen (2018.4 入学)

Ⅲ 研究に関する状況と自己評価

保健管理センターは学生・教職員の健康管理が主な業務であり、研究が活発に行われているとは言えないものの研究報告、学会発表等は着実に行い、毎年一定以上の成果を出している。 九州地区大学保健管理研究集会（今年度はコロナのため中止）、全国大学保健管理研究集会（今年度はコロナのため Web 開催）などの大学の保健管理に関する学会やそれぞれの専門領域の学会に積極的に参加し、研鑽に努めるようにしている。科研費への応募も継続して行っており、荒木の研究テーマが採択されている。以下に研究報告、学会発表等の内容を提示する。

＜本庄キャンパス＞

研究報告

〔学会発表〕

1. 尾﨑岩太、安田郁、武富弥栄子、古川早苗、嘉松美穂、小川康子、荒木薫、木道圭子：学生の健康調査から見た新型コロナウイルス感染症の影響 第 51 回九州地区大学保健管理研究協議会 2021 年 7 月 12～30 日 Web 開催（鹿児島大学）

科学研究費補助金など

1. 荒木：JST 女子中高生の理系進路選択支援プログラム「継続・育成型 STEAM ガールズ in SAGA・SASEBO」（採択）

2. 荒木：ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）（国立研究開発法人科学技術振興機構　4,990 万円）（採択）

3. 令和 2 年度 「定期接種化前後でみたロタウイルスワクチンの有効性の変遷」（科学研究費助成事業）荒木　薫（採択）

＜鍋島キャンパス＞

研究報告

〔学会発表〕

１. 尾﨑岩太，安田郁，武富弥栄子，古川早苗，嘉松美穂，小川康子，荒木薫，木道圭子．学生の健康調査からみた新型コロナウイルス感染症の影響．第 51 回九州地区保健管理研究協議会 2021.7.12-30(Web 開催)

２. 尾崎岩太，村川徹，野口光代，佐藤英俊，栗山一道．大学医学部職員における自覚的な冷えと気血水スコアに関連する症状の頻度．第 71 回日本東洋医学会学術総会 2021.8.13-15(仙台市 Web 開催) 日本東洋医学雑誌 2021:71;199.

３. 尾崎岩太、村川徹、野口光代、佐藤英俊、栗山一道．大学医学部職員の自覚的な冷えに関連する気血水スコアの検討：性・年齢別のサブ解析．第 46 回日本東洋医学会九州支部総会 2021.11.14(那覇市 Web 開催)．抄録集 p17.

４. 尾﨑岩太，荒木薫，磯田広史，高橋宏和．医学部学生における B 型肝炎ワクチン接種後の HBs 抗体価の推移．第 44 回日本肝臓学会西部会 2021.12.8-9（岡山市）.肝臓 2021;62(suppl 3):A713.

５. Perveen Rasheda, Ozaki Iwata, Manirujjaman Md, Xia Jinghe, Tanaka Kenichi, Takahashi Hirokazu, Anzai Keizo, Matsuhashi Sachiko. Effects of PDCD4 on cell growth of different Fibroblastic Cells. 第 44 回日本分子生物学会 2021.12.1-3(横浜市ハイブリッド開催) Abstracts 3LBA-025

Ⅳ　国際交流及び社会連携・貢献に関する状況と自己評価

保健管理センターでは、大学、自治体、地域の方々などから講演等を依頼されることも多くあり、時間の許す範囲で健康に関する講演を行うなど社会連携・貢献に努めている。県の審議会、委員

会、関連学会等の委員となり活動に協力したほか、学会誌の査読員なども務めている。留学生の健康面の支援、留学する日本人学生の留学前後の健康面の支援なども佐賀大学の国際交流活動の一助になっていると考える。以下に 2021 年度に行った講演等について示す。

＜本庄キャンパス＞

〔講　演〕

1. 木道圭子:「サークル活動再開に向けた講演会」新型コロナウイルスの感染予防　学生向け 2021 年 6 月 11 日　Web 教材提供
2. 荒木薫:「乳幼児のかかりやすい病気と感染症」佐賀県みやき町ファミリーサポート提供会員養成講座　2021 年 11 月 11 日
3. 荒木薫:「冬を元気に健康に！～冬季における感染症～」佐賀大学教育学部付属幼稚園子育て談話室　2021 年 12 月 14 日

〔自治体・学外の団体の委員会等〕

木道:全国大学保健管理協会評議員、全国大学保健管理協会九州地方部会幹事

荒木:佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター指定管理者選定委員会委員

＜鍋島キャンパス＞

〔講　演〕

1. 尾﨑岩太. 佐賀県肝疾患対策の検証. 佐賀県肝癌対策医会研修会. 2021.2.26. ガーデンテラス佐賀(佐賀市)

2. 尾﨑岩太. 令和 3 年度佐賀県感疾患対策委員会報告. 佐賀県肝疾患対策委員会.2021.3.23. 佐賀大学医学部（オンライン開催）

3. 尾﨑岩太. 保険診療の基礎と特定共同指導に向けて. 令和 3 年度第 1 回保険診療講習会. 2021.5.26. 佐賀大学医学部臨床大講堂（佐賀市）

4. 尾﨑岩太. 病院職員の健康管理:ストレスマネジメントを中心に. 令和 3 年度看護部リフレッシュ研修会 2021.6.4. 佐賀大学医学部臨床小講堂（佐賀市）

5. 尾﨑岩太. 健康の保持増進:過重労働対策. 令和 3 年度産業医研修会 2021.7.10. 佐賀大学医学部臨床大講堂（佐賀市)

6. 尾﨑岩太. 免疫学:麻疹・性感染症の実相. 令和元年度教員免許更新講習会. 2021.8.18-25. 佐賀大学（オンライン配信）

7. 尾﨑岩太. 環境保健：食中毒の実相/アレルギー. 令和元年度教員免許更新講習会. 2021.8.18-25. 佐賀大学（オンライン配信）

8. 尾﨑岩太. なぜ研修医に漢方薬の知識が必要か？考え方と知っておくべき副作用. 研修医漢方勉強会(1). 2021.9.15. 佐賀大学医学部臨床小講堂（佐賀市）

9. 尾﨑岩太. 急性期に使える漢方. 研修医漢方勉強会(2). 2021.10.21. 佐賀大学医学部臨床小講堂（佐賀市）

10. 尾﨑岩太. 補剤：超高齢化社会の漢方. 研修医漢方勉強会(3). 2021.11.17. 佐賀大学医学部臨床小講堂（佐賀市）

〔自治体の委員会等〕

佐賀県肝疾患対策委員会（委員長）、佐賀県肝炎治療助成費認定協議会委員（委員長）、佐賀県国民健康保険診療報酬審査委員会委員、佐賀県社会福祉審議会委員

Ⅴ　組織運営・施設・その他部局の重要な取組に関する状況と自己評価

保健管理センターの組織運営については、保健管理センター運営委員会で審議、報告を行い運営しており、2021 年度についても新型コロナウイルス感染症による影響はあったものの通常の業務については、遅滞や問題、事故等もなく円滑に業務は遂行できたものと考える。運営委員会では、健診を中心とする保健管理業務の企画立案、健康診断の結果の報告、健診データの解析結果の提示、健康調査の結果報告などを行っている。

佐賀大学の学内の各種委員会にも積極的に参加し、保健管理センターとして専門的見地から意見を述べ委員会運営に貢献している。また産業医として佐賀大学の労働安全衛生業務に従事している。災害や事故、感染症の発生などに備え危機管理マニュアルを策定している。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が急速に世界へ流行拡大し、日本国内にも多くの感染者が発生した。佐賀大学でも学生・教職員に感染者が発生し、健康状態の把握や情報共有、保健所との連絡など様々な対応が必要な状況が続いた。医療者への新型コロナワクチン接種（鍋島）や職域接種（本庄）を感染制御部等と協力して実施した。新型コロナウイルス感染症については、大学の緊急対策本部会議にも参加し、他の部局と協力して対応に当たった。

各教員が担当している学内の委員会委員等を下記に示す。

委員等（木道）：

保健管理センター運営委員会（委員長）、本庄地区安全衛生委員会（委員、産業医）、安全衛生管理委員会委員、本庄地区産業医、入学試験委員会委員、学生委員会委員、教育委員会（オブザーバー）、教育室会議委員、施設マネジメント委員会委員、病原体等安全管理委員会委員、放射性同位元素等安全管理委員会、本庄地区放射線障害予防委員会委員、新型インフルエンザ対策委員会委員、化学物質管理委員会委員、学生支援室・健康支援部門（部門長）、集中支援部門（協力教員）、ダイバーシティ推進室員

委員等（尾崎）：

佐賀大学医学部安全衛生委員会・佐賀大学医学部教育委員会（オブザーバー）・佐賀大学動物実験委員会・佐賀大学遺伝子組み換え委員会・佐賀大学医学部及び附属病院エコアクション 21 委員会・佐賀大学医学部附属病院社会保険委員会（委員長）・佐賀大学ハラスメント相談員・佐賀大学鍋島事業場産業医

委員等（荒木）：

保健管理センター運営委員会委員、・アドミッションセンター広報・高大接続等専門委員会委員、大学院教養教育プログラム部会委員、女性限定または女性優先公募に関する WG 委員、ダイバーシティ推進室運営委員（副室長）、広報室員、ハラスメント相談員

Ⅵ　改善すべき点

今年度は昨年度に続き、新型コロナウイルス感染症により、業務全体に多大な影響が生じた。健康診断については、4 月に感染者の急増があり、本庄キャンパスでは、一部日程が 7 月に延期となった。前年（2020 年）は、新型コロナウイルス感染症の影響で、対象を新入生、実習参加予定者等と限定して実施したが、本年度は予約システムで混雑を回避しながら感染症対策を行い、全学生を対象として実施した。

健診受診率は、鍋島キャンパスは 99％台と例年通り高かったものの、本庄キャンパスでは受診率が大幅に低下し、66.5％となった。内訳としては、学部新入生の受診率は、教育学部 96.0％、芸術地域デザイン学部 78.9％、経済学部 81.7％、理工学部 79.0％、農学部 94.8％で、新入生全体の受診率は 83.6％であった。学年別の受診率は、2 年生 73.4％、3 年生 59.5％、4 年生 56.1％で、3・4 年生の受診率の低さが目立った。大学院生の受診率は、67.9％だった。遠隔授業が続く状況で来学が困難な学生、感染を避けるため医療機関で健診を受ける学生もあり、健診受

診率は例年の 80%程度と比較し、かなり低い受診率となった。他大学でも、医療系、教育学部など実習を伴う学部以外においては、同じように健診受診率の低下が見られるとのことだった。

予約システム導入に関しては、昨年度から学生健診にも予約システムを導入し、混雑のない健診を実施することができた。利便性の向上とともに、感染症対策（いわゆる三密対策）にもつながり、有用であった。その後の本庄キャンパスの職員のインフルエンザ予防接種、新型コロナワクチン職域接種にも予約システムを導入し、混雑なく円滑にワクチン接種を実施することができた。

健康診断は、健康状態の把握とともに疾病や障害等の修学支援のニーズの把握やメンタルヘルススクリーニングの役割も持っている。学生の心身の健康、修学の支援につながる直接の情報を得る場であることから、より多くの学生に定期健康診断を受診してもらうようにすることが重要であると考える。

感染対策を行い予約システムで混雑なく安心して受診できること、健診の時期や場所（変則的なスケジュールの経験がある学年への再周知）、健康診断証明書を無料で発行できる、メンタルヘルスのスクリーニングも行っていることなどのメリットなどについて、SNS や動画等を用いたわかりやすい周知を行うなどの方策について検討を行っている。